

#### 4 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験

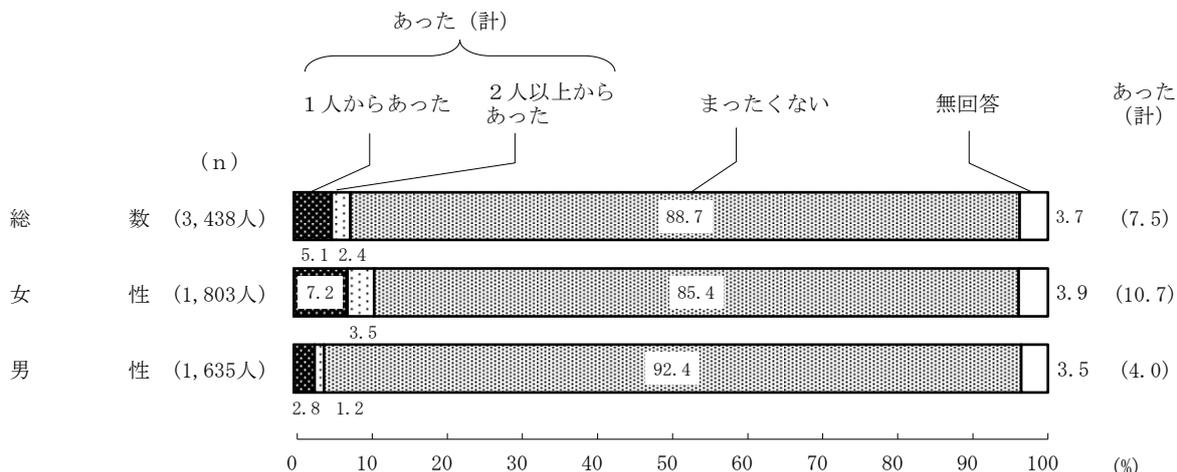
##### (1) 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無

これまでに、ある特定の相手から執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・電子メールの送信やSNS・ブログ等への書き込みなどの被害にあったことがあるか聞いたところ、「1人からあった」が5.1%、「2人以上からあった」が2.4%で、被害経験のある人は7.5%となっている。

性別にみると、被害経験のある女性は10.7%、男性は4.0%となっている。(図4-1-1)

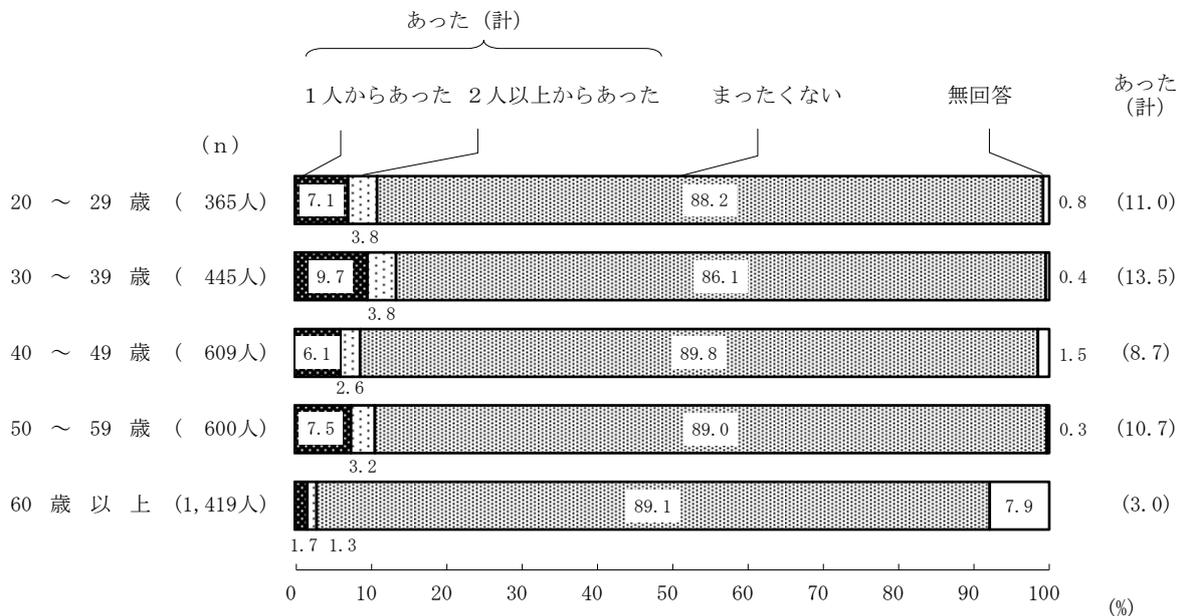
問23 あなたはこれまでに、ある特定の相手から執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・電子メールの送信やSNS・ブログ等への書き込みなどの被害にありましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図4-1-1 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無



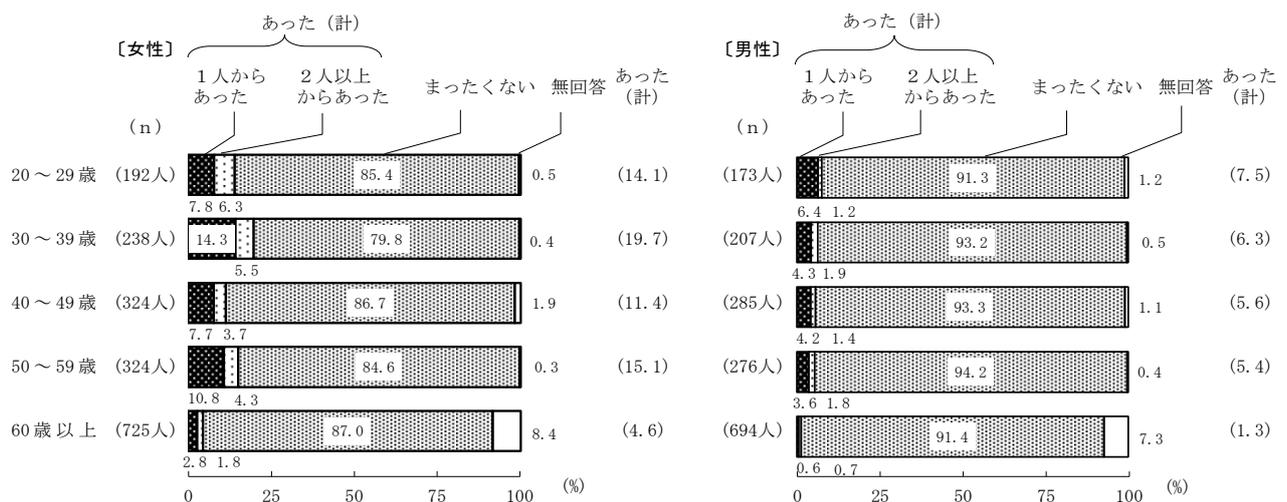
年齢階級別にみると、特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は30～39歳が13.5%で最も多く、次いで20～29歳が11.0%、50～59歳が10.7%となっている。(図4-1-2)

図4-1-2 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無（年齢階級別）



性・年齢階級別にみると、特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は女性の30～39歳で19.7%と最も多くなっている。(図4-1-3)

図4-1-3 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無（性・年齢階級別）



ある特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害について8つの行為をあげ、それぞれの行為を年代別にみると、

「10歳代にあった」は、“面会や交際の要求”が23.2%と最も多く、次いで“つきまとい、待ち伏せ、押し掛け、うろつき”（22.4%）などとなっている。

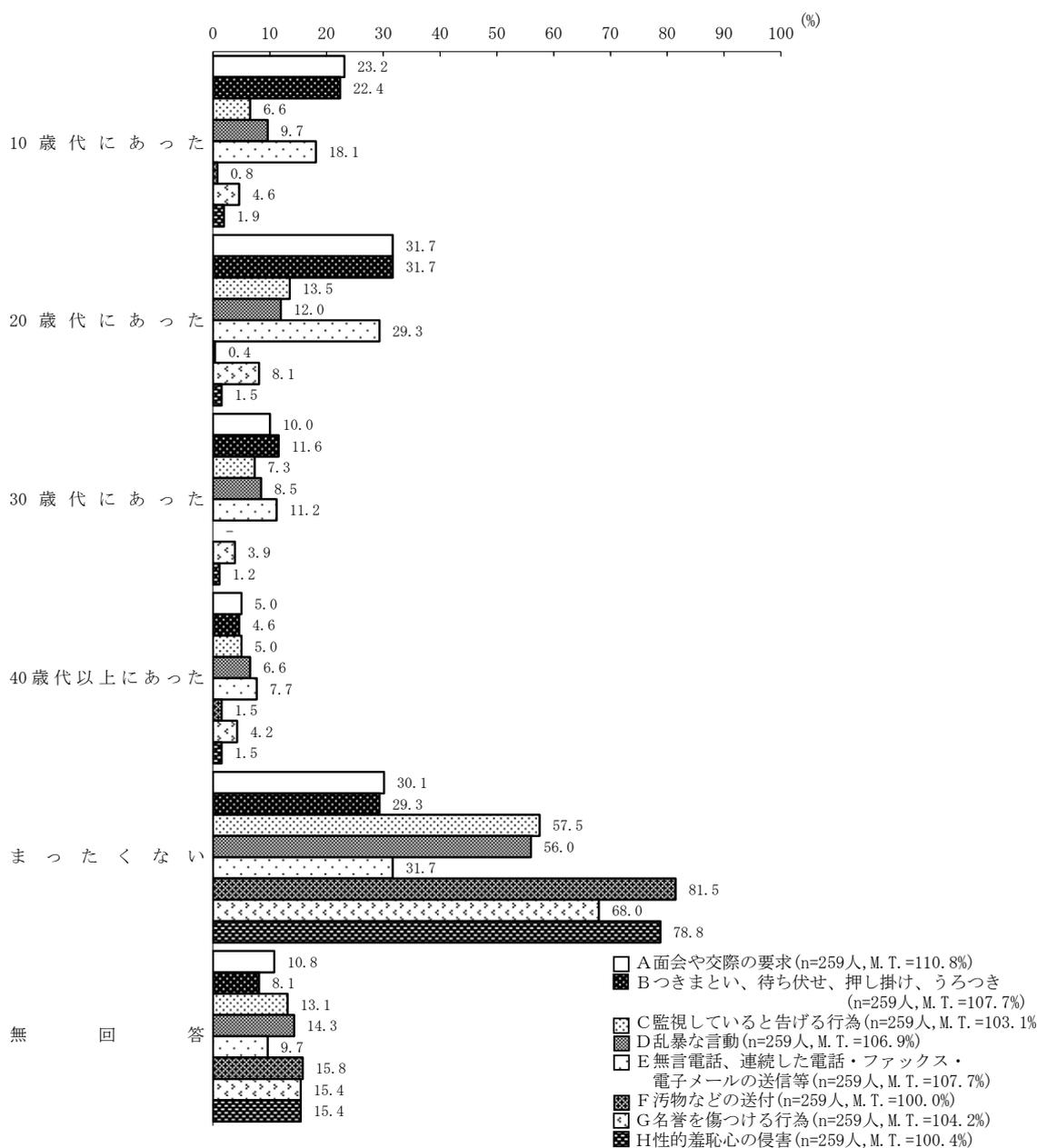
「20歳代にあった」は、“面会や交際の要求”、“つきまとい、待ち伏せ、押し掛け、うろつき”が31.7%と最も多く、次いで“無言電話、連続した電話・ファックス・電子メールの送信等”（29.3%）などとなっている。

「30歳代にあった」は、“つきまとい、待ち伏せ、押し掛け、うろつき”が11.6%と最も多く、次いで“無言電話、連続した電話・ファックス・電子メールの送信等”（11.2%）などとなっている。

「40歳代以上にあった」は、“無言電話、連続した電話・ファックス・電子メールの送信等”が7.7%と最も多く、次いで“乱暴な言動”（6.6%）などとなっている。（図4-1-4）

問24 あなたはこれまでに、その特定の相手から、次のA～Hのようなことをされましたか。A～Hのそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

図 4-1-4 執拗なつきまとい等の被害経験の有無（複数回答）

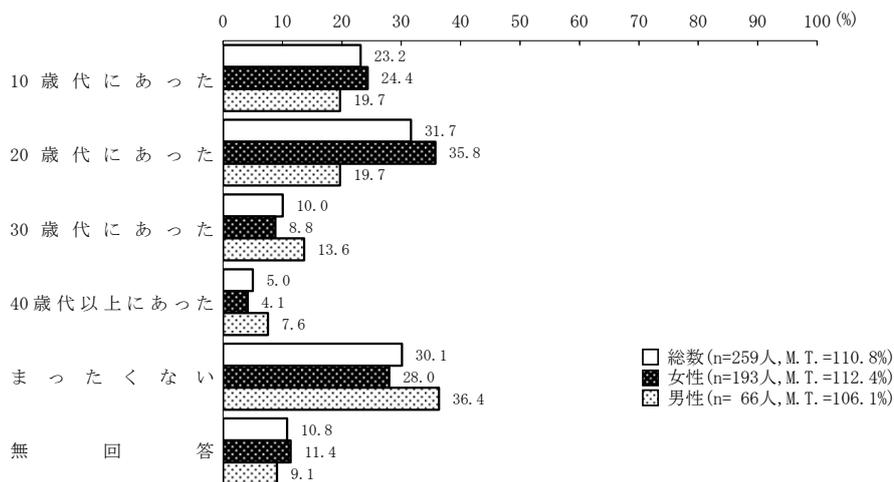


- A 例えば、あなたに、面会、交際その他の望まない行為を行うことを要求するなど
- B 例えば、あなたに、つきまとい、待ち伏せし、進路に立ちふさがる。また、あなたの住居、勤務先、学校その他あなたがふだんいる場所（以下「住居等」という）の付近において見張りをする、あなたの住居等に押し掛ける。あるいは、あなたの住居等の付近をみだりにうろつくなど
- C 例えば、あなたに、あなたの行動を監視していると思わせるようなことを告げたり、あなたの知り得る状態にするなど
- D 例えば、あなたに、著しく粗野、乱暴な言動をするなど
- E 例えば、あなたに、電話をかけて何も告げない、あるいは、あなたに拒まれたにもかかわらず、連続して、電話をかける、ファックスを送る、SNSを用いたメッセージの送信等を行うこと、ブログ、SNSの個人ページにコメント等を送るなど
- F 例えば、あなたに、汚物、動物の死体などの著しく不快感、嫌悪感を覚えさせるような物を送付したり、あなたの知り得る状態にするなど
- G 例えば、あなたに、あなたの名誉を害することを告げたり、あなたの知り得る状態にするなど
- H 例えば、あなたに、あなたの性的羞恥心を害することを告げたり、あなたの知り得る状態にする、あなたの性的羞恥心を害する文書、画像、電子データの入った記録媒体などを送付したり、あなたの知り得る状態にする、あるいは、あなたの性的羞恥心を害する電子データなどを送信したり、あなたの知り得る状態にするなど

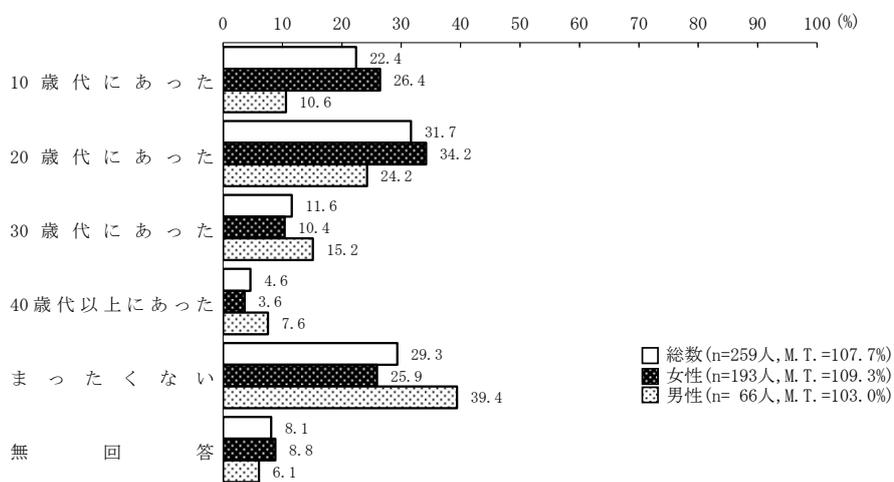
性別にみると、特に“面会や交際の要求”、“つきまとい、待ち伏せ、押し掛け、うろつき”については男性よりも女性で、“乱暴な言動”や“無言電話、連続した電話・ファックス・電子メールの送信等”については女性よりも男性で、被害経験のある人が多くなっている。(図 4-1-5)

図 4-1-5 執拗なつきまとい等の被害経験の有無（性別）（複数回答）

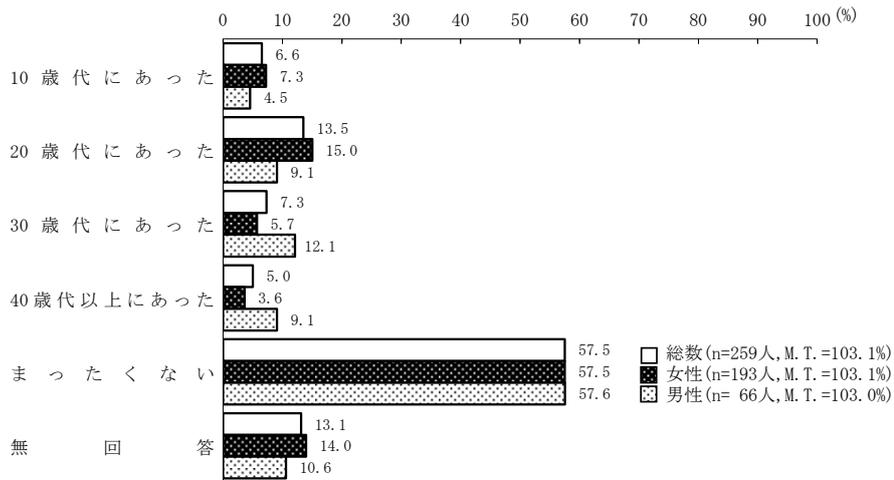
A 面会や交際の要求



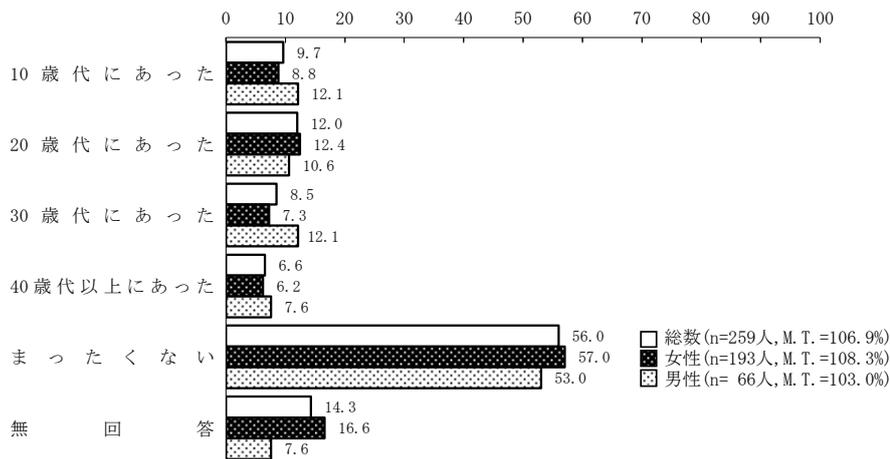
B つきまとい、待ち伏せ、押し掛け、うろつき



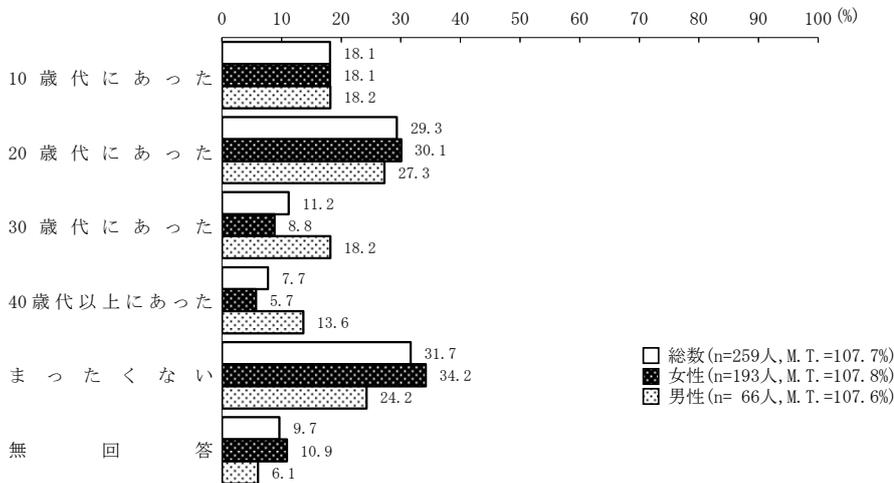
C 監視していると告げる行為



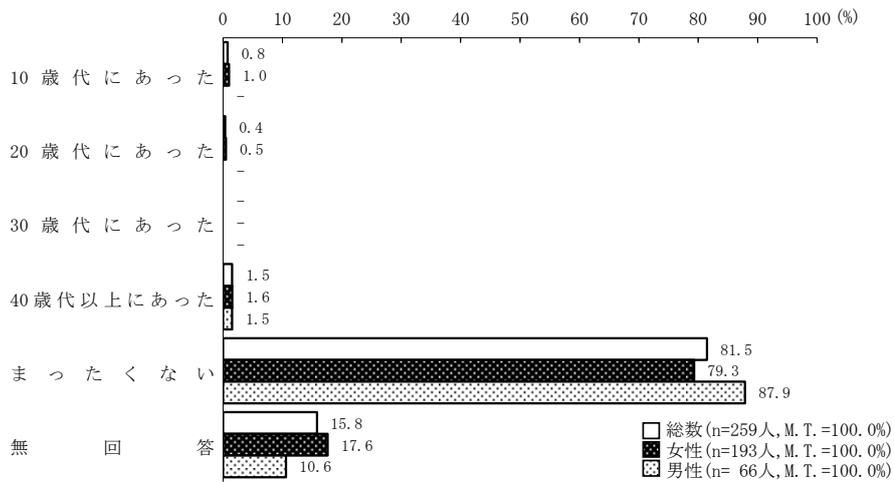
D 乱暴な言動



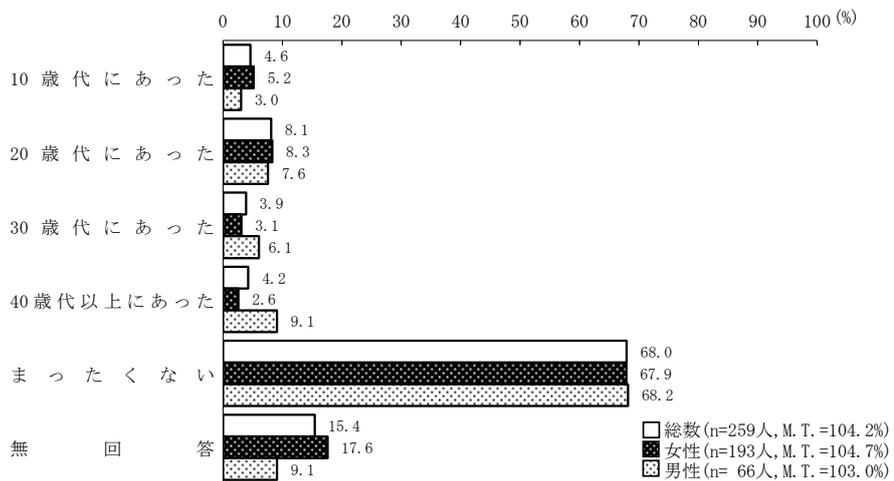
E 無言電話、連続した電話・ファックス・電子メールの送信等



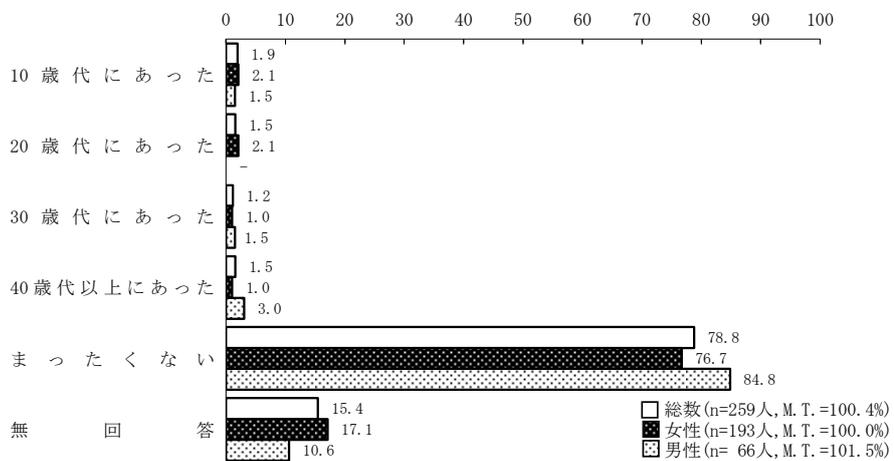
F 汚物などの送付



G 名誉を傷つける行為



H 性的羞恥心の侵害



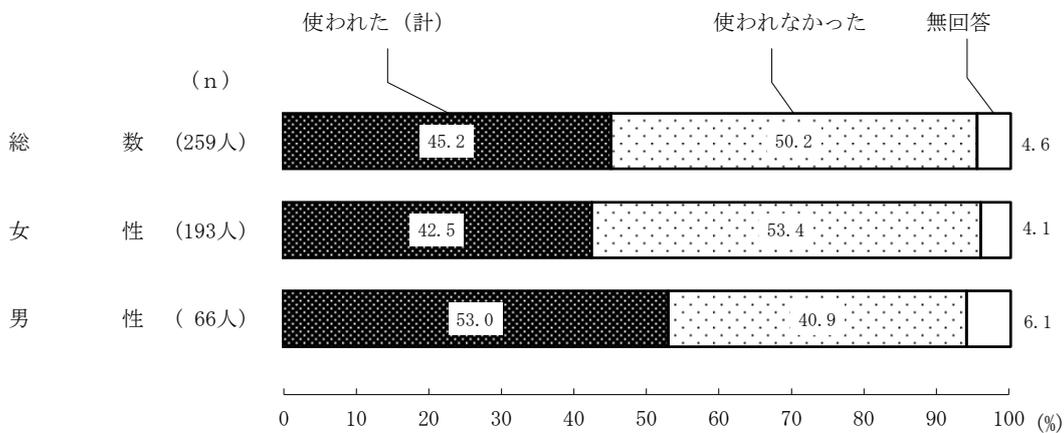
## (2) 電子メールやインターネットなどによる被害経験

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害があった人（259人）に、その被害について、電子メールやインターネットなどが使われていたかを聞き、いずれかの通信手段により被害があったと回答した人の合計を『使われた』としてまとめた。

『使われた』は45.2%で、女性が42.5%、男性が53.0%となっている。（図4-2-1）

問25 あなたがこれまでに、加害者から受けたそのような被害では、電子メールやインターネットなどが使われていましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

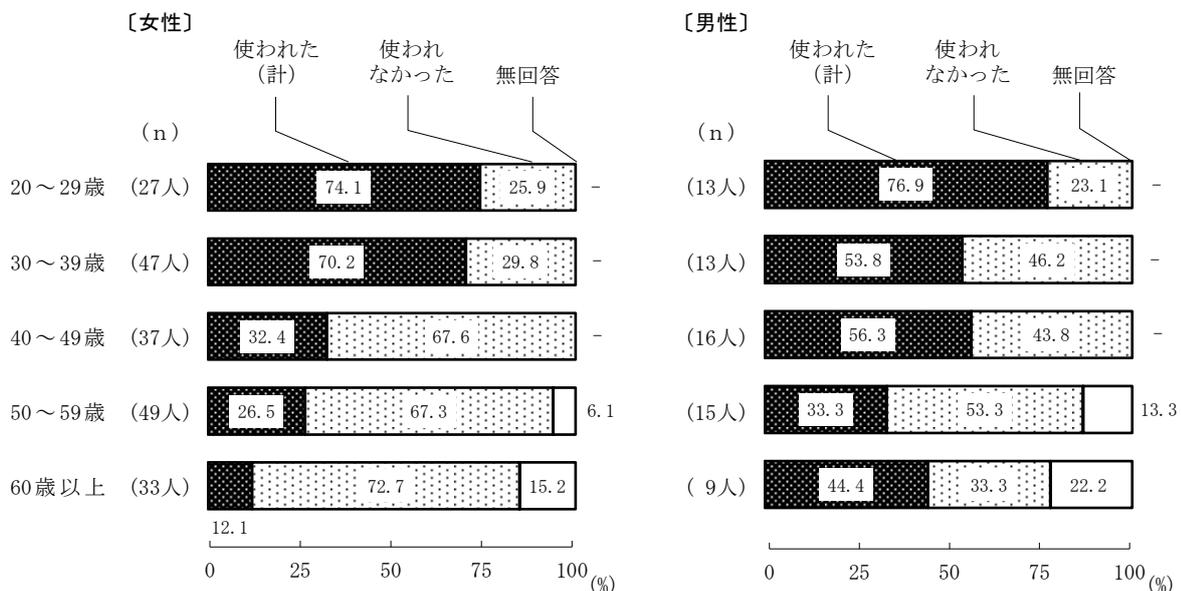
図4-2-1 電子メールやインターネットなどによる被害経験



性・年齢階級別にみると、『使われた』は、女性では年齢階級が下がるほど多くなっている。

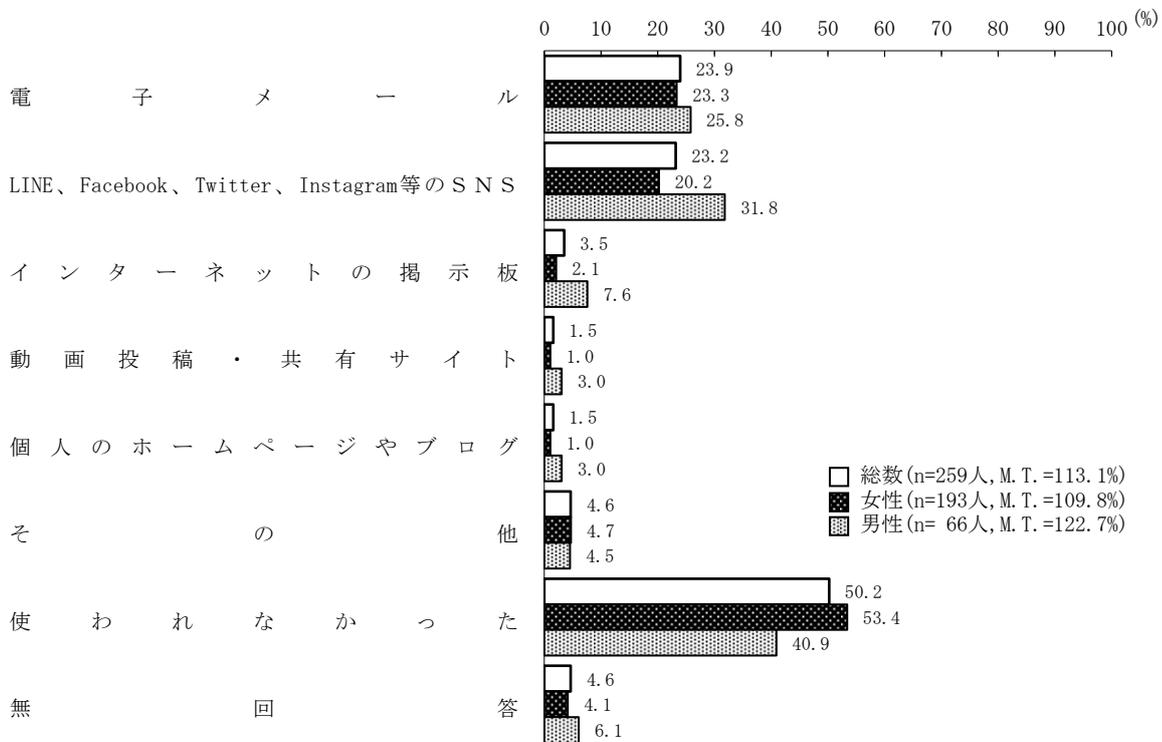
（図4-2-2）

図4-2-2 電子メールやインターネットなどによる被害経験（性・年齢階級別）



使われた通信手段をみると、「電子メール」が23.9%と最も多く、次いで「LINE、Facebook、Twitter、Instagram等のSNS」が23.2%となっている。(図4-2-3)

図4-2-3 電子メールやインターネットなどによる被害経験(複数回答)



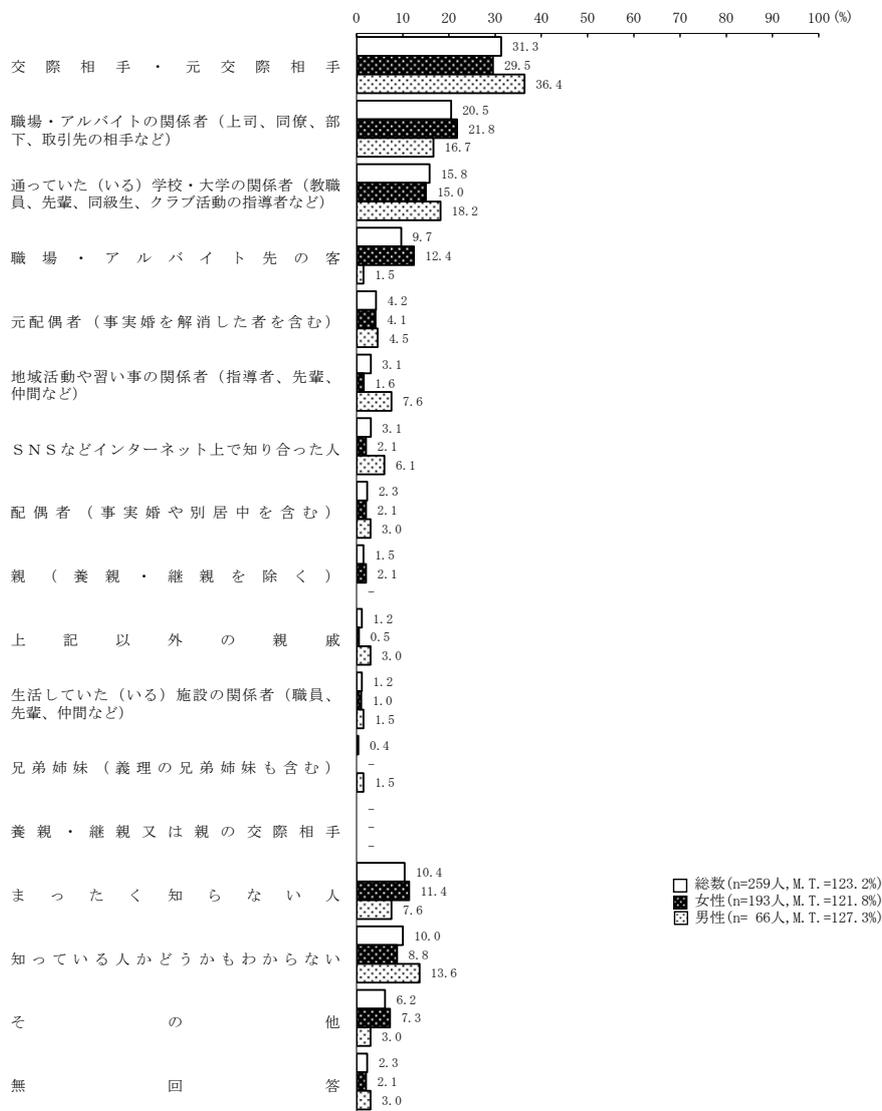
### (3) 加害者との関係

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（259人）に、加害者との関係を聞いたところ、「交際相手・元交際相手」が31.3%と最も多く、次いで「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）」（20.5%）、「通っていた（いる）学校・大学の関係者（教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など）」（15.8%）などとなっている。

性別にみると、「まったく知らない人」で男性に比べて女性が11.4%と多くなっている。（図4-3-1）

問26 加害者はあなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。  
 （○はいくつでも）

図4-3-1 加害者との関係（複数回答）



\* 「上記以外の親戚」とは、下記以外の親戚を指す。  
 1. 配偶者（事実婚や別居中を含む）  
 2. 元配偶者（事実婚を解消した者を含む）  
 3. 親（養親・継親を除く）  
 4. 養親・継親又は親の交際相手  
 5. 兄弟姉妹（義理の兄弟姉妹も含む）

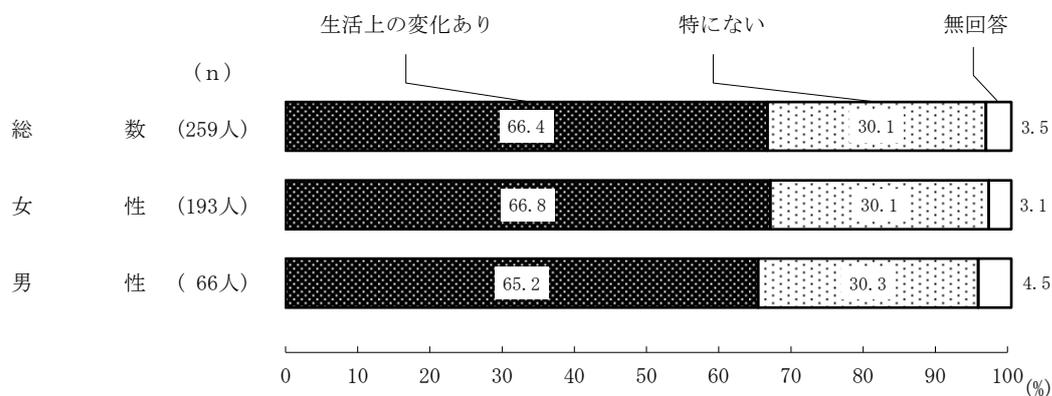
#### (4) 生活上の変化

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害があった人（259人）に、その被害による生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を『生活上の変化あり』としてまとめた。

『生活上の変化あり』は66.4%で、女性が66.8%、男性が65.2%となっている。（図4-4-1）

問27 あなたはこれまでに、加害者から受けたそのような被害によって、生活が変わりましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

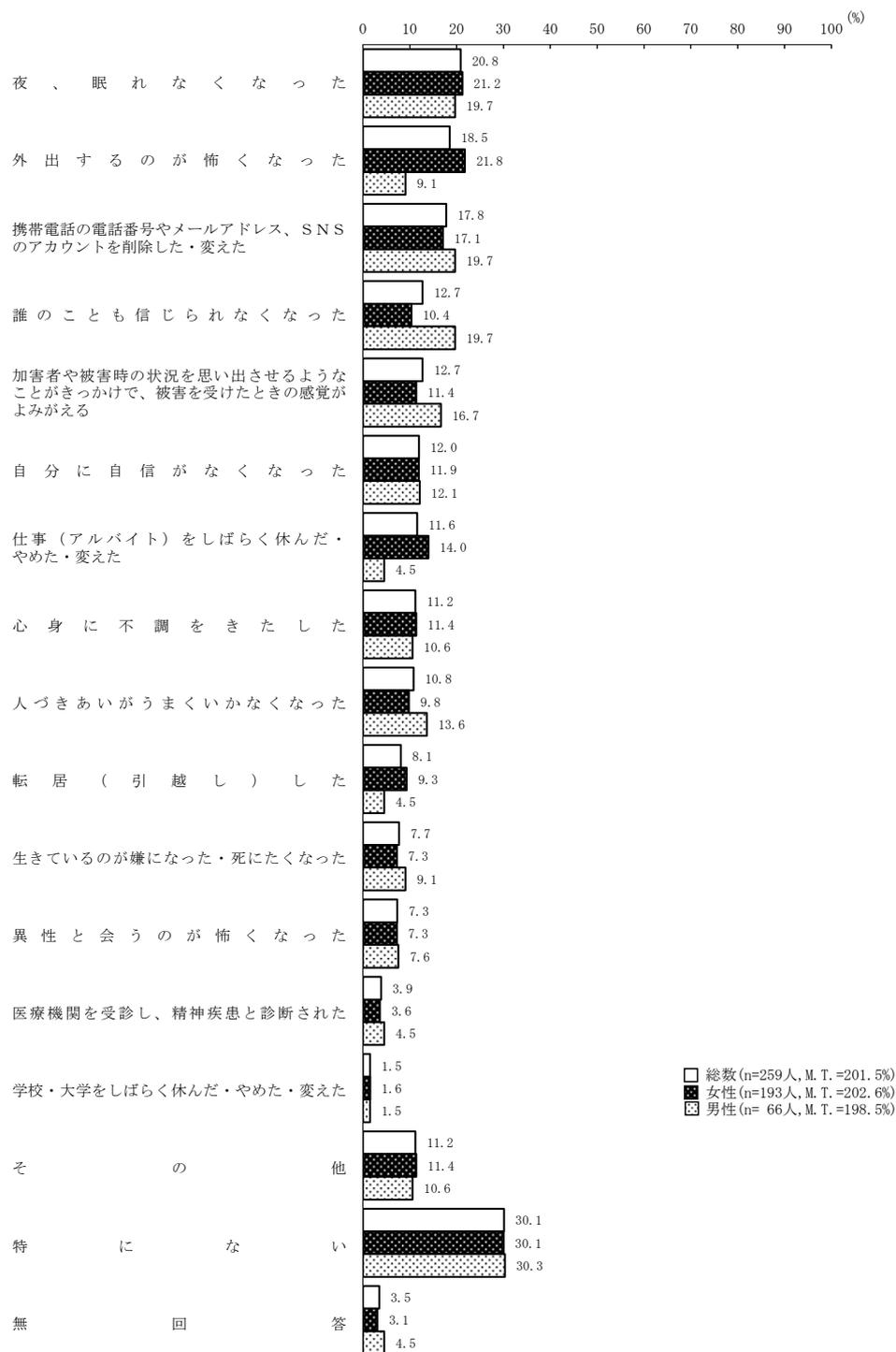
図4-4-1 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害による生活上の変化の有無



生活上の変化の内容をみると、「夜、眠れなくなった」が20.8%と最も多く、次いで「外出するのが怖くなった」(18.5%)、「携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた」(17.8%)などとなっている。

性別にみると、女性は「外出するのが怖くなった」が21.8%と最も多く、男性は「夜、眠れなくなった」、「携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた」、「誰のことも信じられなくなった」が19.7%で最も多くなっている。(図4-4-2)

図4-4-2 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害による生活上の変化（複数回答）



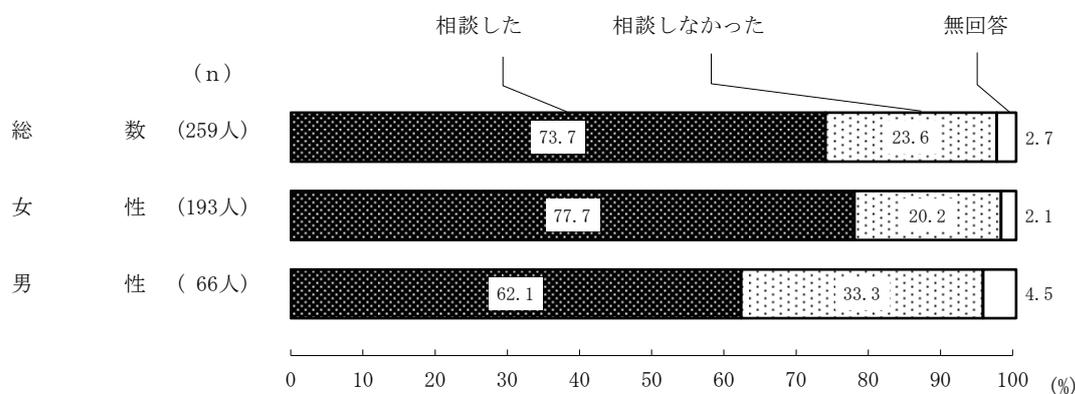
### (5) 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害の相談経験

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害があった人（259人）に、その被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』にまとめた。

『相談した』は73.7%で、女性が77.7%、男性が62.1%となっている。（図4-5-1）

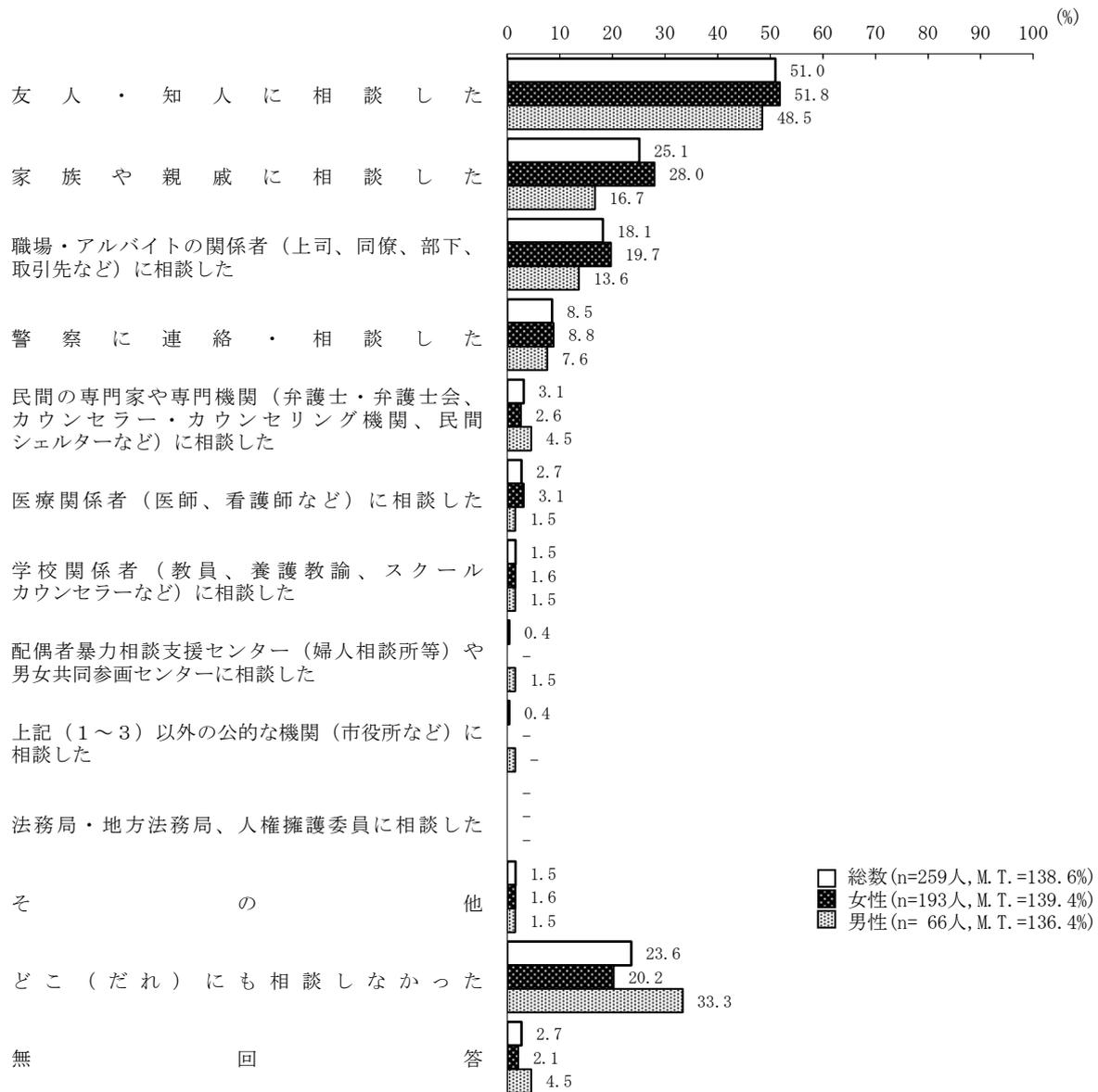
問28 あなたはこれまでに、加害者から受けたそのような被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-5-1 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害の相談の有無



相談先をみると、「友人・知人に相談した」が 51.0%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」(25.1%)、「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した」（18.1%）などとなっている。（図 4-5-2）

図 4-5-2 特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害の相談先（複数回答）



\* 「上記（1～3）以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。

1. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センター
2. 警察
3. 法務局・地方法務局、人権擁護委員

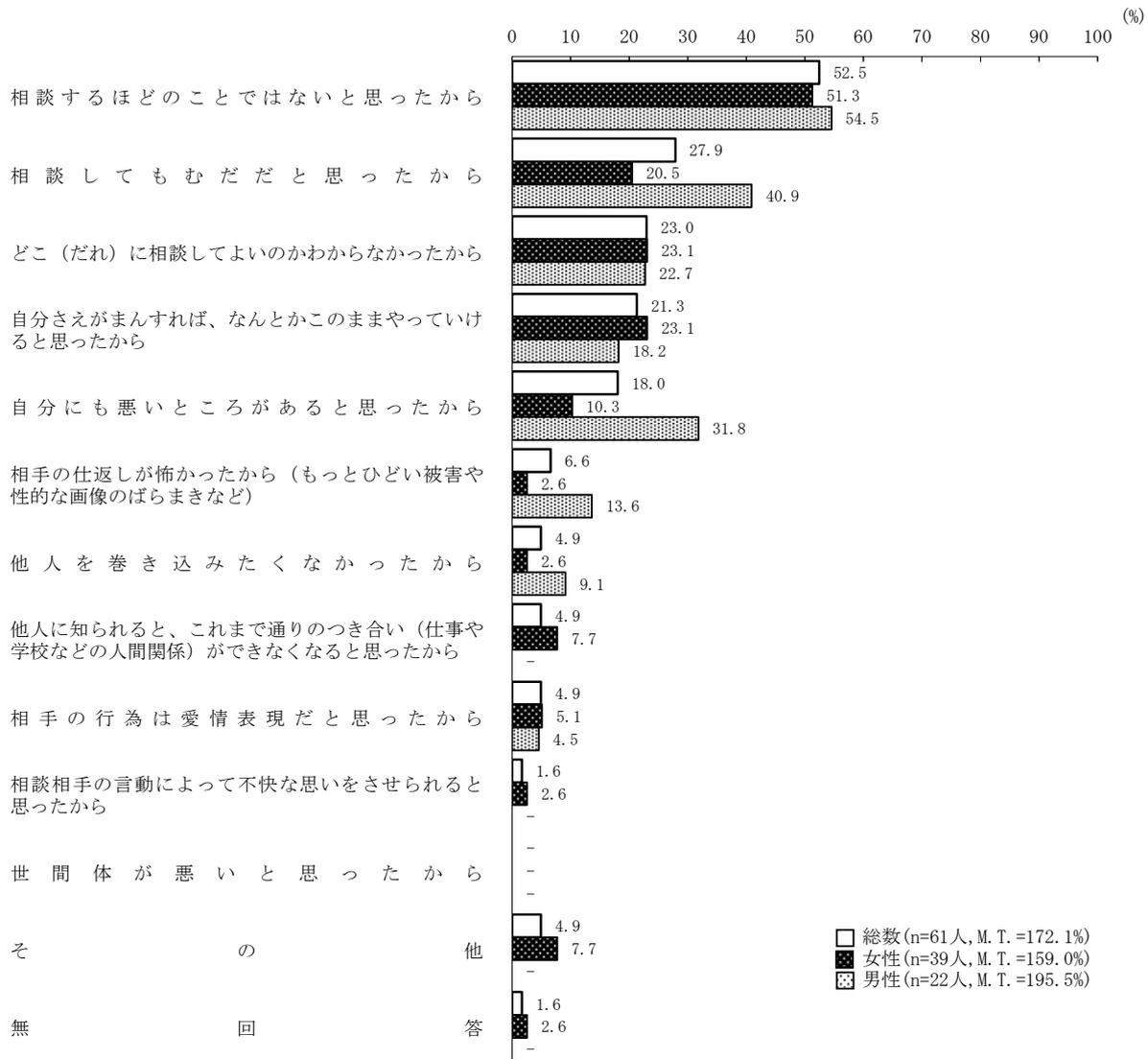
### (6) 相談しなかった理由

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（61人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（52.5%）が最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」（27.9%）、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」（23.0%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」（21.3%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（18.0%）などとなっている。

(図 4-6-1)

問 29 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。  
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図 4-6-1 相談しなかった理由（複数回答）



### (7) 命の危険を感じた経験

特定の相手からの執拗なつきまとい等の被害があった人（259人）に、その被害によって、命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、命の危険を「感じた」は23.9%で、女性が25.4%、男性が19.7%となっている。（図4-7-1）

問30 あなたはこれまでに、その被害によって、命の危険を感じたことがありますか。  
あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-7-1 命の危険を感じた経験

